［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　平成19年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0371100488
法人名	有限会社　メープル
事業所名	グループホーム　もみじ苑
所在地	釜石市大字平田1－1－16 （電　話）0193－36－1130

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年10月11日	評価確定日	平成19年11月29日

【情報提供票より】（19年9月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　16年　7月　12日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　7人，非常勤　2 人，常勤換算　7．1人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋建　造り
	1 階建ての　階　～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30,000　円	その他の経費（月額）	33,000　円
敷　金	有（　円）	(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） (無)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　1、000　円		

（4）利用者の概要（　10月15日現在）

利用者人数		9 名	男性　0 名	女性	9 名
要介護1		2 名	要介護2	1	名
要介護3		4 名	要介護4	2	名
要介護5		0 名	要支援2	0	名
年齢	平均	81.8 歳	最低　74 歳	最高	89 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	小泉医院　・　やえがし歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者がこの事業所を立上げたきっかけは、自らの認知症の家族をあるグループホームに託したことで、その人らしい暮らしを確保すると言うことの大切さという事にあり、運営者自身が日々の実態を把握すべく可能な限りケアに参加し、自ら信念をもって取り組まれている。
地域の状況は、宅地開発や団地造成などで住宅地として構成され、介護施設、幼稚園、公営アパート、企業の事業所などで在来の農家は少ない環境である。
また事業所内は、利用者が自由に行動し会話が飛び交い明るい雰囲気になっていて、職員は主役（利用者）を盛り立てる黒子（補助者）になりきる様子が見受けられる。天井の高い南に向いた窓の広い共用空間には食卓テーブルの他、大きな対面ソファー、コタツのある和室、ウッドデッキがついて長椅子が配置され暖候期の活用が期待される。運営者の理念を基に職員が一体となって利用者本位の暮らしの継続に努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価では特に課題としては取り上げられてはいない。日常のケアの評価について当事業所では十分な取り組みが続いていることから、その評価の次に来るものを大事として更なる取り組みが期待されるところである。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価に当たっては、評価票に全職員個々で記入して、その結果を持ちよってその中から課題項目を中心に実践にあたっての問題点なども合せて検討をしていた。グループホームでは誰が主役か、その主役を盛り立てるために職員は補佐役になりきるという事業所の統一した意識を持ち続けられることを期待している。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議の意識や役割等を十分に理解し積極的に参加してもらうためには、参加メンバーの選任は重要なことである。外部の人々の目を通した事業所の取り組みへの意見や改善課題への提言、特にも地域の理解と支援を得るために貴重な機会と捉えており、メンバーの中の家族の代表の他にオブザーバーとして他の家族の参加も検討されている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

利用者家族との接触が多い利点を生かして、利用者に有効と思われる支援については積極的に家族に働きかけてその支援に協力を得て実績を上げている。家族と職員とのコミュニケーションにはその雰囲気作りが大事なことから、意識的にまず利用者についての情報共有に努めている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域からの情報が得られるよう努めているが、更なる工夫と努力を期待する。近隣は住宅街（新しい家が多い）になっていて日中の近所の方々と利用者との触れ合いには良い条件とはいいにくいところから、地区での行事などに積極的に参加することや、ボランティアの受け入れなどに前向きに取り組んでいる。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念と”我が家の3ヶ条”をホーム内のそれぞれの場所に掲げて、日常的に見られるようにしていて、運営規程の中にも運営方針が明示されている。	○	運営理念の文章にいろいろな内容が盛り込まれて長い文章になって覚えきれないことも懸念されるのでポイントを絞り込んだ表現が望まれるし、掲示の方法などにも工夫が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が自由闊達にそして気軽な日々が過せる、生活の実現のためのお手伝いをしていくという思いが職員の間で確認され実践されている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市内で行なわれる、さまざまなイベントに参加することや地域の行事に出向き交流を深めており、近くの小学校の学習発表会に招待を受けた際に、利用者手作りの雑巾を寄付するために縫っている。大正琴や踊りのボランティアの訪問も受けている。	○	地区町内会に加入しているが、具体的動きが少ないので、グループホームからの積極的な働きかけや回覧版を回してもらうなど、地域からの情報を受け入れて地区の活動に参加されることが期待される。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価への取り組みを前向きに捉え、特に外部評価にあたっては、職員全員が評価項目をそれぞれ記入しそれを基に職員で話し合い、改善点を明らかにして実践に向けている。	○	評価で明らかになった日常のケアの課題（排泄や、水分チェックの活用、職員の感覚だけで利用者に接していないかなど）を大切にケアの根本を見直して行く継続的努力が期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で定例的に開催し、ホームの行事や取り組みの様子などの報告や意見を頂く機会と捉えている。今後は会議への参加者の見直しを行い特に利用者の家族の方全員の参加を呼びかけて見る検討を始めている。		運営推進会議として検討をお願いしたいことをホームの側から投げかけてその意見を集約しつつ実践に活かされるよう、より内容のある会議とするための工夫もあり得るように思われる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の定期的訪問をお願いしており、ホーム便りを市の担当部署に届けるなどのほか、認知症高齢者徘徊SOSネットワーク（市包括支援センター）に家族からの同意を得て、事前登録するなど市との連携を大切にしている。		事業の運営やサービスの課題の中には、市町村担当者と協議の上解決を図っていく場合があるので、事業所だけで抱え込まないことも大事なことと思われる。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族の来訪が多く、また利用者の外泊も多いことからその機会を十分活用して家族との情報交流を積極的に行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定例的に開催して家族の意見要望の吸い上げに努めている。また、家族の面会時には職員になんでも話せる雰囲気で家族に接し利用者についての情報の共有に努めている。		家族が利用者の通院に同行することにより、利用者が明るくなって来ている実績もあることから、ホーム側からの、家族に対して出来る限り通院に同行して頂くよう働きかけも期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を抑えるために職員間（運営者、管理者とも）の意志疎通を大事にして人間関係でのストレスを溜めないような工夫をしているほか運営者自身介助に参加して実情把握に努めている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には、職員の意志を尊重して、出来る限り参加できるような勤務体制を工夫し、研修後は復命により職員全体での学習に役立ている。		徹底した個別対応や柔軟な支援が求められる地域密着型サービスの実践力は、事業所内外の研修とともに職員が働きながら技術や知識を身につけていくための方策への工夫が求められている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの沿岸ブロックや県協会の研修に参加するほか他のホームとの相互交流に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、本人や家族との面接だけでなく、出来るだけ見学して頂き、少しでも雰囲気を味わって頂いたところから、入所に向けての納得が出来る迄徐々に進めるようにしている。		サービス利用の主体は本人であり、家族などの状況で利用が急がれる場合でも、本人の安心と納得の確保がその後の利用者とスムーズな関係作りに役立つと思われる。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や片付けに多くの利用者が参加していて全体に能動的な行動になっている。職員と利用者、また利用者同士の感謝の言葉が自然に行きかい和やかな雰囲気になっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の導入から、利用者を意識的に観察することで多くのことに気づくようになり、利用者の考えを否定的に考えるのではなく同調の態度で接するうちに利用者の行動に変化が見られてきている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを家族に掲示し意見を聞く場合、利用者を良く知っている関係者からの情報も大事にして本人本位のプランになるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者個々の担当を決めて、その担当職員を中心にケアプランの検討を行なっている。また日々の観察の結果を申し送りやカンファレンスで検討している。		小規模で、きめ細かいケアが特徴の地域密着型サービスでは期間にとらわれず、変化に応じて臨機応変に見直していくことが求められている。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所として可能なこと（機能）は何かを考えて、本人と家族の暮らしを守るため、その時々に必要な支援がおこなえるよう地域にもその輪が広がるよう努力をしている。非常災害時への対応として地域の消防団の方にも年に2回程来所頂き意見や提言を頂いている。		地域の公共機関（交番、消防署、市の出先機関など）の協力が得られるような取り組みが期待される。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者5名の方々がかかりつけ医院に通院しているが、家族の方にお願いして、一緒に行って頂いていた利用者の方は家族に接する時間が増えたことによる安心感からか笑顔が多く見られるようになった事例がある。	○	この事例を大切にし、他の家族の方々にも情報を提供して可能な限りでの受診付き添いを促して欲しいと思う。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族は最後までこのホームで過すことを望まれているが、設備面や医療との連携などでの課題を抱えている。	○	今後の課題として、利用者とその家族、運営者、職員で重度化の対応に向けた多方面からの検討の上、可能な限りこの”もみじ苑”で利用者が安心して過すことが出来る様課題解決への取り組みを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常での利用者への声かけや言葉使い、職員同士の会話にも心配りをしている。ケース記録など利用者の個人記録は事務室で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者全員毎日入浴を原則として支援して（自立入浴の方が多い）散歩も職員と2人での希望をかなえるため頻繁に外出支援が行なわれるなど利用者の意向に沿った支援が続いている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材をメニューに取り入れ食事の時の話題として利用者個々の生活の思い出が語られている。大部分の利用者が調理や配膳、後片付けに参加してそれぞれ自分の持ち分をこなしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員が毎日入浴されるので、その希望をかなえるため職員は日々奮闘している。入浴の順番での争いがあったので、いかに納得して頂くかに工夫がなされている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸やピアノ、ギター、習字と多芸な利用者」も居り、ホーム内で自由に出来るよう支援を行い、その作品も展示されている。		加齢と認知症が進む過程で、利用者は自分ひとりで楽しみごとや役割の場面をうまく作れなくなってきても、体で覚え込んだ様々な記憶は、見ているだけで楽しい気持ちや活力が出たりすることもあるので、職員の働きかけが大事なことだと思われる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物も楽しみの一つなので、近くのスーパーに出かけることや、少し遠出のドライブなど印象に残るような外出を心掛けている（釜石大観音、新仙人トンネル開通）。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中（AM6：30～19：30）の鍵掛けはしていない。玄関の出入りはチャイムで確認できて、徘徊のある利用者には、普段の様子の観察から察知するようにして、時には利用者から出て行ったことを知らせてもらってもいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応のため、定例的に防災、避難の訓練を行い地域の消防団の方々にも定期的に来所してもらって災害時に協力を頂けるよう話し合いをしている。		火災や地震などの発生時に備えた物品（食料、飲料水、トイレ用の水、寒さをしのげるような物）を準備しておくことも大切なことである。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士の指導を受けており、毎食の利用者個々の様子や水分量のチェックを行い、今後のケアに反映させていく検討をしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られたり利用者の作品が展示されていて、共用の居間としての雰囲気が出ている。利用者はそれぞれ居心地の良い場所でくつろいでいる。こたつのある小あがり、大きなソファがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や持ち込みの家具などが見られ、その人らしい居室になっている。		